

〔東蝦夷日誌二編〕宇須略○中　ウス略○註と云て、場所の總名となれり、東西北地とも、如斯よき灣を

皆ウシヨロと稱る處多し、箱館をウシヨロケシと云しは、臆の端也、西北のヲシヨロ、是ウシヨロ

の轉し、ウシヨロコツは臆の地所の義、北地のウシヨロも如臆灣よりして號し也、此地本名はメ

ツカ會所と云、其義太古の海嘯に、外は皆流れしが、此所計殘しが故也、是恐は今の辨天社略○註の

地か、土人多し、政政改百三軒、四百六十七人、安

ホロヘツ領略○中　ホロヘツ略○註

所也、其後モロランと一場所の様に成しが、今度又境標を立たり、土人多し、文政改五十八軒、二百

六十人、

白老領略○中　シラライ略○中　土地東南向、素濱船沖懸り、土地平地なり、略○中　名義シラウは蛇の事

なり、此地に多きが故號し也、土人安政改八十二軒、三百九十九人、

〔東蝦夷日誌三編〕ユウブツ領略○中　ユウブツ略○註　名義イウブツ也、イウとは温泉、ブツは口也、此

川上に温泉ある故に號く、元は松前藩十三軒略○註　入會の給所にして、土人三百十二人、安政改二

百二十八軒、千七百七十九人、○中略

沙流領　本名シヤリにして、濕澤蘆荻叢の義、此邊多きより號く也、略○中　サル會所略○註　人別、文政

改千二百十人、安政三改千三百廿餘人、

〔東蝦夷日誌四編〕ニイカツプ領略○中　ニイカツプ略○註　船々遠淺にて、潟無故に、產物積取時も沖

掛り、時化荒候時は逃船とす、略○註　往昔は松前家臣工藤平右衛門給所なり、ビボクと云しを、文化

六年、呼聲の不宜に依て、ニイカツプと改む、名義ニイカツプは、楡松皮の義なり、此川木皮多き故

號也、ビボクも此會所元の地名にあらず、此川の名なり、土人皆川筋に住す、文政改七十一軒、人別

百八十一人、產物、鮭、昆布、煎海鼠、鱒、椎茸、干鱈、鮫、壳、其餘雜魚多し、